

令和5年度 和歌山大学大学院教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）

第二次入学試験問題・解答用紙 [小論文] (3枚の中の1)

受験番号

コース：特別支援教育コース

※

現在、日本では、特別支援教育において、家庭・学校・福祉機関の連携をより一層、推進することが求められています。

教育と福祉の連携については、保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校等（以下「学校」という。）と児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所等（以下「障害児通所支援事業所等」という。）との相互理解の促進や、保護者も含めた情報共有の必要性が指摘されているところであり、各地方自治体において、教育委員会や福祉部局の主導のもと、支援が必要な子供やその保護者が、乳幼児期から学齢期、社会参加に至るまで、地域で切れ目ない支援が受けられる支援体制の整備が求められている。

（平成30年文部科学省「教育と福祉の一層の連携等の推進について（通知）」より抜粋）

上記は、平成30年文部科学省「教育と福祉の一層の連携等の推進について（通知）」の抜粋です。これを読んで、以下の2つの問題について解答しなさい。

（問1）なぜ、特別支援教育において、家庭・学校・福祉機関の連携が必要とされるのか、あなたの考えを書きなさい。

解答

（足りない場合は次ページを使って記述しなさい）

令和5年度 和歌山大学大学院教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）

第二次入学試験問題・解答用紙 [小論文] (3枚の中の3)

受験番号	
------	--

コース：特別支援教育コース

※	
---	--

(問2) 家庭・学校・福祉機関の連携を推進していくための方策について、あなたが重視することや取り組みたいと思うことを論じなさい。

解答

第二次入学試験問題 [小論文] 解答例・出題の意図

コース：特別支援教育コース

【出題の意図】

（問1）この問題は、障害のある子どもの教育に当たって、行政分野を超えた連携、及び、乳幼児期・学齢期・成人期以降とライフステージを通じた支援が必要であるという理解をしているかについて、確認するために出題した。解答では、例えば、放課後等デイサービス事業所、児童発達支援事業所などを挙げ、障害のある子どもの家庭生活に加えて、放課後や長期休暇中の活動状況を把握し、学校教育にも活かしていく必要があること、障害のある子どもに必要な支援が、状況や場所が変わっても、家庭・教育・福祉それぞれで行われ、継続されていくことによって子どもの心身の健康の維持につながるなど、自分の考えを踏まえて記述できることを求めている。

（問2）この問題は、現在、学校で実施されている方策（例えば、個別の教育支援計画の活用、関係機関との連携の促進）について理解しているか、さらに、自分のこれまでの教育実践等を通して、自分の考えを論理的に述べることができるかについて確認するために出題した。